

読売新聞 きょう（6月7日）のイチ押し

一面・三面 スポーツ賭博解禁案 猛反発は必至

経済産業省が、スポーツの試合結果やプレー内容を賭けの対象とする「スポーツベッティング（賭け）」の解禁に向けてとりまとめた素案が判明しました。しかし、八百長やギャンブル依存を招きかねないため、スポーツ界はじめ各界の猛反発は必至とみられています。

- ★ 素案によると、賭けの対象は野球やサッカー、バスケットボールなどを想定。得た財源の一部を地域スポーツの振興や公立中学校の部活動の運営費用に充てるとの構想もあります。
- ★ ただ、公立中の部活動改革を話し合った有識者会議の座長は「部活動は極めて重要な教育の領域。ベッティングとは一線を画して議論した」として、この構想を強くけん制しています。
- ★ 野球協約で八百長や野球賭博を禁じているプロ野球やスポーツ振興くじ（toto）が定着しているJリーグなどからも疑問の声が上がっています。スポーツ賭博が合法化されている欧米ではサッカーやテニスなどで八百長が疑われる試合が後を絶ちません。

社会面 東名あおり 懲役18年判決

2017年、神奈川県東名高速で「あおり運転」の末に一家4人を死傷させたとして、危険運転致死傷などに問われた男の差し戻し審の裁判員裁判があり、横浜地裁は男に求刑通り懲役18年を言い渡しました。

- ★ 判決は「通行を妨害する目的は明らかで、死傷の結果は妨害運転の危険が現実化したもの」として危険運転致死傷罪の成立を認めました。
- ★ この事故を機に道路交通法が改正され、急ブレーキや急な車線変更を対象とした「あおり運転罪」が創設されました。また、走行中の車の前で停車し進行を妨げる行為などが「危険運転」に加えられました。

他紙と比べて

「物価の優等生」といわれるバナナについて、フィリピン政府が日本の小売業界団体に価格引き上げに理解を求める異例の申し入れを行うことを経済面で取り上げています。バナナの店頭価格は20年以上ほとんど変わっていませんが、エネルギー価格の上昇で輸送費用などがかさみ、生産者を圧迫しているということです。